

大 学 名	東京外国語大学	学 問 分 野	学際、複合、新領域
専 攻 等 名	地域文化研究科地域文化専攻		
拠点のプログラム名称	史資料ハブ地域文化研究拠点		
拠点リーダー氏名	藤井毅	所属部局・職	地域文化研究科 教授
プログラムの概要	領域横断的かつ総合的な地域文化研究を推進し、アジア・アフリカ諸言語に特化させたアジア太平洋地域における中核的な史資料ハブセンターを構築しようとするもの。		
拠点形成の目的・必要性	<p>わが国の地域研究は、農村社会学や生態学との出会いの中で独自の高い達成を示してきたが、一方アジア・アフリカ諸言語史資料を専門に扱う本格的な研究基盤が存在せず、史資料の共有・情報化・発信といった活動において遅れをとっている。また地域研究という学問分野は、現在のグローバル化の急進展、高度情報化のなかで、その対象領域の流動化、新たな境界の生成などの事態に直面し、認識の根幹に触れる方法的再検討を迫られている。</p> <p>以上の認識に基づき、本プロジェクトでは、オーラル資料や表象文化資料などの非文字・非図書資料をも視野に入れた上で、史資料の発掘・共有・情報化・発信事業を主務とするアジア太平洋地域における史資料ハブ・センターを構築する。合わせて地域や文化の生成と変容を視野に入れた研究活動を推進し、臨地教育を通して世界的に活躍しうる次世代研究者を養成する。</p>		
研究拠点形成実施計画	<p>学長直属の21世紀COEプログラム運営室を置き、プログラム支援体制を統括する。拠点リーダーを責任者として史資料の収集・保存・共有・情報化活動を統括し、海外諸機関と共同して史資料ハブを形成する実務を担う統括班を置く。史資料活動の重点対象を、在地固有文書・印刷媒体・オーラルアーカイブ・表象文化資料の4領域とし、それぞれに史資料収集-研究班を組織し、史資料収集関連活動と同時にそれらに依拠した研究を推進する。さらに21世紀地域文化研究班をおき、21世紀に対応した新たな地域文化研究のあり方に関する提言を行う。海外の協定校や史資料所蔵機関にリエゾン・オフィスを開設し、現地機関、研究者との共同の史資料及び研究活動や留学生、院生の臨地教育の場とする。これらの活動を、史資料収集の対象国、地域の研究者、機関との共同事業として推進し、成果を現地還元することにより、アジア・アフリカ地域社会に貢献しうる世界的拠点形成を図る。</p>		
教育実施計画	<p>本研究拠点が養成しようとするのは、21世紀世界の現状に包括的な理解を持ち、なおかつ、各地域の言語に精通し、地域社会との直接的なコミュニケーションを通じて生活事情や文化を理解したうえで、地域社会の要請とグローバル秩序との間で適切な仲介応力を発揮しうるような人材である。本研究拠点の事業に留学生、院生を広く参画させることで、アジア・アフリカ地域において臨地研修の機会を与え、多言語運用能力の高度化、在地社会に対する理解の深化に加え、史資料収集・共有・情報化活動および史資料解読に関わる高い能力を開発する。同時に国際シンポジウム・ワークショップに積極的に参加させ、英語をはじめとする多言語環境の中で高度の発表力を養い、その成果を様々な媒体によって公開していく。</p>		

# イメージ図 史資料ハブとは何か」

